



仕事のスピードが遅い人の特徴

1. 周りのプレッシャーを感じにくい

仕事が遅い人があらゆることにスローテンポなのかと言えば、そうではない。私が30歳の頃、同じ部署にいた、30歳前後の仕事のスピードが遅い人は、昼食を一緒に食べる時、とても速かった。よく男性5~6人で店に行っていたが、食べ終わるのは常に彼がトップだった。きっと空腹だったのだろう。店は、ランチの時間帯でお客が多かった。その場に長居できない雰囲気だった。彼は、そのような切羽詰まったものを感じ取っていたのかもしれない。

これは、仕事においても同じこと。上司などから繰り返し催促され、時には叱られたりすると、「カタツムリみたいな人」も少しはテンポが速くなっていった。彼は、特定の仕事に限ってというと、速く対処することができるようになっていた。ただし、その特定の仕事とは、20代前半の新入社員でも対応できるものだった。

2. 仕事の全体像が見えていない

「仕事が遅い人は、完璧主義」と指摘する人がいる。もちろん、それが理由で遅くなってしまいう人もいだろう。ただ「仕事が遅い人」はそれ以前のところでつまずいていたことのほうが多かった。ここでいう完璧主義とは、その仕事を隅々まで丁寧に、ハイレベルにこなすことであって、もしそういう性格だとしたら、前提として仕事の全体像や細部まである程度、把握しているはずだ。

しかし、それが把握できていないとしたら？ そもそも、仕事の全体像とそれぞれの細部の違いすら、正確に理解していないため、スピード感を持って処理しようとしても、何をどのように、進めればいいのか、わからないはずだ。つまりは、何もわかっていないことになる。

3. 自分が「遅い」と気付いていない

仕事が遅い人の特徴のひとつがこれだ。周囲に迷惑をかけていることを意識していない。言動をみる限り、特に反省もしていないし、何かを変えようともしていない。上司や同僚らの苛立ちにも鈍感だ。本人は、周囲の怒りの理由が自分にあるとは、思っていない。もしかすると、それを想像するような感性を持ち合わせていないのかもしれない。おそらく、周囲に損害を与えていると受け止めているのなら、仕事を消化するスピードをあげようと努力するはずだ。

4. 仕事に対するモチベーションが低い

会社員たるもの、向上心があれば、多くの、そして、高度な仕事をこなしながら会社の業績アップに貢献し、自分自身も成長して出世していきたいと思うもの。そのためには、スピード感をもって仕事をそつなくこなすことは必要最低条件だ。しかし、仕事に対するモチベーションが低いとどうだろう？ それすら素直に受け入れられず、前に進んでいくことが難しい状態になってしまう。「何のために、目の前にある仕事を速く処理するか」が最初から抜け落ちてしまうと、仕事を速くこなす必要性を感じなくなってしまうのだ。

5. そもそも、会社員に向いていない

極論を言ってしまうと、長年働いていても仕事のスピードが上がらない、遅い人は、会社員に向いていないのかもしれない。もしかすると、上司をはじめ、周囲の同僚の多くがそれに気づいているかもしれないが、本人は気づいていないことも多い。むしろ、キャリアを積むと、同世代の人と同じペースで昇格し、一定の待遇を受けることができるものだと信じ込んでいる。だから、現状を改善しようという意識がないということで、会社員としてはまさしく失格だ。

上司や周囲の社員は、特に多忙を極める部署の場合、「仕事が遅い人」への対応に疲れ切っていることが多い。結局、そのせいで周囲にしわ寄せがいき、負担が増えてしまうからだ。そのストレスが積み重なっていくと、「早く、他部署に異動してほしい」「早く辞めてもらいたい」と思われるようになる。それでも、仕事が遅い人がマイペースで、のろのろ仕事をして、悪びれた様子がないのを見ると、職場全体の雰囲気に影響を与えかねない。

上司は、注意深くチェックをしながら、仕事のスピードをあげるよう、根気よくサポートし続けることが大切だ。自分自身のチームカアップのためにも。